

温州ミカンの浮皮防止に関する研究  
(第2報) 植物調節剤による浮皮防止効果について

栗山隆明・吉田 守・下大迫三徳  
(福岡県立園芸試験場)

KURIYAMA, T., YOSHIDA, M. and SHIMOOSAKO, M.  
Studies on the Control of Rind Puffing of Satsuma Mandarin  
(2) On the Effects of the Plant Growth Regulator

九州は秋期に温暖多雨な年が多く、温州ミカンの浮皮発生がひどく、品質低下の一因となっているので、温州ミカンの浮皮防止に効果のある植物調節剤を探索し、実用技術の確立をはかるために、二、三の薬剤を供試して実験を行ったので、その結果について報告する。

I. 試験方法

1) 供試薬剤および濃度

第 1 表

区	供 試 薬 剤	濃 度
A	GA <sub>3</sub>	5ppm
B	クレフノン U	50X
C	H. c. c. -732 Na	100ppm
D	H. c. c. -731 K	100ppm
E	H. c. c. -731 Ca	100ppm
F	H. c. c. -732 K	100ppm
G	H. c. c. -733	100ppm
Cont	無 処 理	

2) 散布月日 1974年10月16日

3) 供 試 樹 普通温州成木 枝別処理 3回反復

II. 試験結果および考察

1. 果実の着色はGA<sub>3</sub>区が最もおそく緑斑が残ったが、他の区では緑斑は認められなかった。しかし、いずれの処理区においても、無処理区に比べると多少着色がおくれる傾向が認められた。着色のおくれの程度は、ほぼ浮皮の程度と一致しており、浮皮防止効果の高い区ほど着色がおそい傾向が見られた。

2. 浮皮の程度と果実比重、果径指数はほぼ一致する傾向にあり、浮皮程度はGA<sub>3</sub>区が最も軽く、次いで731-K, 732-Na, 731-Ca, 733, クレフノンU, 732-Kの順となり、無処理に比べて全部の処理区に浮皮を軽減する効果が認められた。果汁成分については一定の傾向は認められなかった。

以上のことから、クレフノン区は果面の乾燥が早く、果実表面水調節の働きをしているものと思われるが、H. C. C区はGA<sub>3</sub>区と同様に、植物生長調節としての効果が現われたものと考えられる。

第 2 表 浮皮防止剤の散布と果実の品質

区	縦 径 cm	横 径 cm	果径指数	果実重 g	果実比重	果肉歩合 %	糖 度	果汁 100cc 中の g		浮皮程度	着色程度
								クエン酸	全 糖		
A	5.22	6.59	126.3	114.7	0.832	72.0	9.9	0.952	8.42	0.55	8.75
B	5.14	6.50	126.8	108.7	0.816	73.2	9.7	0.941	8.50	1.08	9.84
C	5.04	6.46	128.2	107.0	0.840	73.7	9.7	0.942	8.66	0.85	9.60
D	5.16	6.60	128.4	113.1	0.847	76.1	9.8	0.922	8.68	0.62	9.59
E	5.14	6.58	127.9	111.0	0.830	73.4	9.3	0.902	8.56	0.90	9.46
F	5.21	6.61	126.9	111.5	0.816	72.5	9.6	0.902	8.42	1.31	9.80
G	5.12	6.50	127.0	111.2	0.835	73.7	9.9	0.965	8.82	0.93	9.57
Cont	5.37	6.76	125.7	119.1	0.809	71.7	9.6	0.914	8.61	2.29	9.92